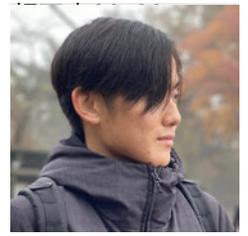
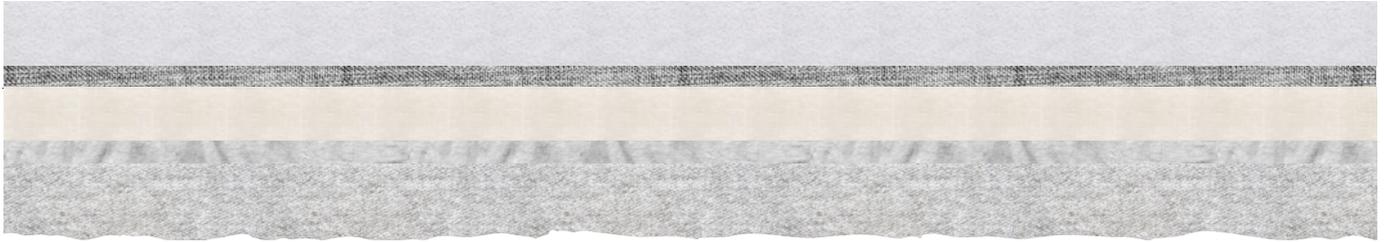


# 知覚によって生まれる空間



中島大威  
建築設計計画 | 研究室



## □コンセプト

ルーズと聞くとだらしないなどネガティブな印象があると思う。だが、だらしくなってしまうのはそこに安心感や落ち着きを感じるからではと考える。そこで、時間やルールなど様々な物事に縛られている日本の、特に都市部の人々が縛られている生活から解放される「ルーズな空間」は、心身をリラックスさせることができるのではないかと。また、この空間は社会によって制限された知覚を豊かにさせることができるのではないかと。

## □プログラム

空間の構成は、5層の布を渦巻き状に巻いたもの。ブロードの長さは700mmあり、暖かい光を取り込む。シーチングは400mmあり立った時の目線部に持ってくることで外部の視線をうっすら通し、姿勢を下げる。オックスフォードは600mmでソファ、ポリエステルは1000mmでクッションのような質感、最後に寝具などに使われる天竺を800~1000mm使い、家の中での姿勢と姿勢に伴う状態を意識した。

## □デザイン

姿勢、光、素材の3つのルーズの要素を元にした布の長さや素材、巻き方から様々な効果が生まれる。布による光の層や400mmの間隔で吊るされた布は視線を下へ誘導したり安定しないものが触れる不快感をもたらすルーズの要素の一つである低い姿勢へと促す。また、低い姿勢での自由度を大きくするために普通のカーテンでは布を避けたら戻ってきってしまうが床に大きく垂らしてあるため、ある程度の形を保つ。

### 人間と布

人間が最も触れるモノは、布である。  
働いている時はスーツを。寝る時は寝巻を。  
社会に縛られている時、自分だけの休息時、  
極端に感じられる場面でも身近にある物質である。  
身近にあり、馴染みのある布を使うことで  
ふとした時にこの空間を思い出す。



ブロード 700mm	カーテンのように暖かい光を取り込む
シーチング 400mm	外部の視線をうっすら通し姿勢を下げさせる。
オックスフォード 600mm	ソファのような生地感
ポリエステル 300mm	クッションのような質感
天竺 800mm~1,000mm	寝具のような質感

日頃、利用するものと姿勢の関係も考慮した布の層

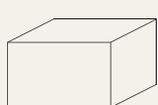
### 布と自由

ルーズな空間をつくる上で自由度が重要と考えた。  
縛られた社会から解放される空間にするためには、  
利用する人が好きに居られる自由な空間である必要がある。  
それに適した素材が布である。

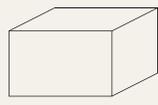
### 布に包まれる安心感。

布団の中。  
ソファでの昼寝。  
カーテンを通した木漏れ日。  
布を通し柔らかくなる風。

組み合わせによって生まれる



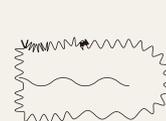
動かせない (自由度が低い)



動かせる (自由度が高い)



ねじる



折りたたむ

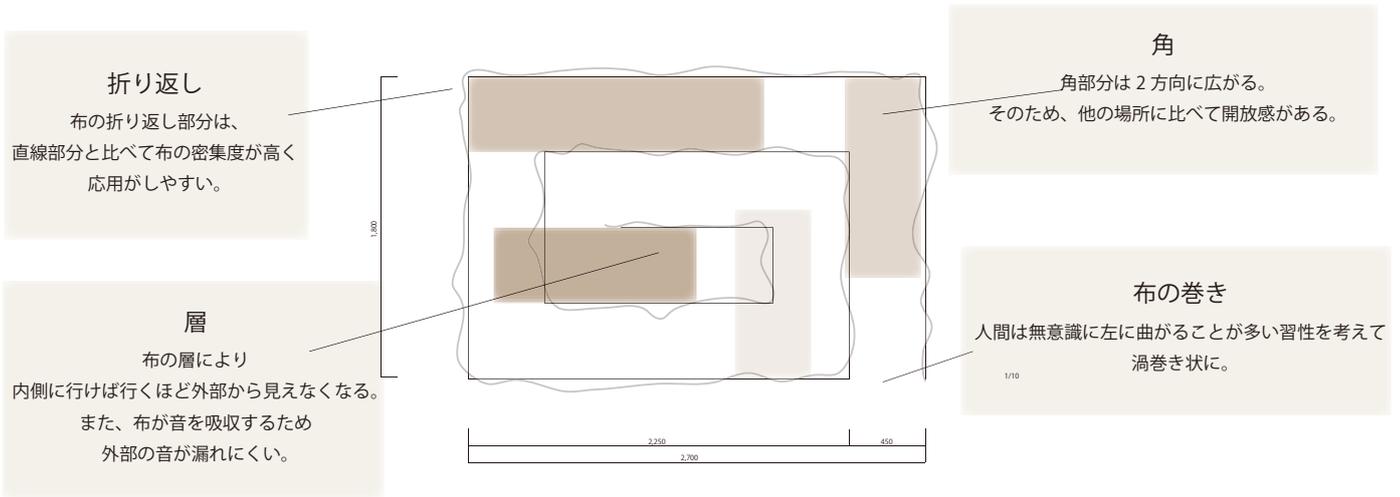


重ねる



包む

## 使用例



<p><b>寄り掛かる</b></p> <p>床にぎりぎり着かない部分の布に座ることで包まれるように布に寄り掛かれる。左右にある布で包まれる感触を調節できる。</p>	<p><b>敷く</b></p> <p>布を重ねたり、束ねたりしたものをクッションのように扱える。高さも調節できるのでその時々にあった使い方ができる。</p>	<p><b>仰向けで寝る</b></p> <p>一番外側の布に頭部を置く。寝方としては最も足を伸ばせる。足を中心部に置くことができるため、まとまった布で足を高くあげられる。また、足を冷やさないように包める。</p>	<p><b>膝を抱えて寝る</b></p> <p>中心に近い位置に頭部を置くことで布を集めやすく高さが出るので枕として使いやすい。布を上げるとし字に広がる空間が密集している。そのため、寝ている際に息苦しさを感ずいても解消することができる。</p>
---	---	---	---

**体勢の変化による空間の広がり**

立っている状態から寝る状態につれて方向に空間が広がる。布の間隔によって一定の方向が制限されるためその変化に気づきやすく、普段感じにくい体験ができる。

視線

布の間隔が狭いため、視線は自然と布がないほうに向けられやすくなる。立っている時は下を見やすい。

↓

寝ている時は上を見やすい。布で視線を制限することで不快感を少なくしつつも限定させる。

**形状記憶**

1枚の布だと簡単に形が崩れてしまう。何枚もの布を床に垂らすことで好みのスポットを維持できる。布を退かしたい際も退かした布が戻って来ないのでストレスなど負担を少なく抑える。

**布の床**

床には、不規則に重なり合った布がある。体勢を保つのに面倒臭さを感じる。姿勢を低くし、楽さを求める。

**布と布の間隔**

20代~50代、男性の平均肩幅は約460mm。布の間隔を450mmにすることで身体が布にあたる。カーテンだと布の下部が風で大きく揺れるが、大量に垂らすことで肩の高さの布が大きく揺れる。安定しないものが触れる不快感によって姿勢を下げさせる。